

平成30年3月23日

(回答)大阪市教育委員会事務局・大阪YMCA

① 学校全般について

1	<p>Q 教育方針・教育目標は？</p> <p>⇒ 本校は、「国際社会でリーダーシップを発揮し活躍するための英語による優れたコミュニケーション能力の習得と、自国の伝統や文化に根ざした国際理解教育に重点を置いた教育活動を通じ、地球的視野に立つて行動するための態度・能力を育成し、大阪の産業の国際競争力の強化及び大阪における国際的な経済活動の拠点の形成に寄与する人材を育てる」ことを目的に開設する学校です。具体的な教育目標については今後策定していきます。</p>
2	<p>Q 求める生徒像は？</p> <p>⇒ 将来、国際的な舞台で英語を駆使して活躍することを目標とし、知的好奇心が旺盛であり、学校生活に主体的かつ意欲的に取り組む生徒に入学してほしいと考えています。</p>
3	<p>Q 具体的にはどのような教育を行うのか？</p> <p>⇒ 授業や課外活動など学校生活全般を通じて、英語による優れたコミュニケーション能力や課題解決能力が身につくような教育活動を行うとともにグローバルマインドを育みます。</p>
4	<p>Q どのような子どもたちに合う学校なのか？</p> <p>⇒ 「海外の文化や人に興味があると同時に日本の文化にも興味がある子ども」、「仲間と話をしながら何かを作り上げることに興味がある子ども」、「知的好奇心があり教員の助けを得ながらも、自ら探究していける子ども」などが、本校での学校生活に合う子どもです。</p>
5	<p>Q 学校の雰囲気、校風は？</p> <p>⇒ 今までの公立学校になかった国際的で英語に満ち溢れた雰囲気を想定しています。授業だけでなく、学校生活全般でも、できるだけ英語を使います。例えば、朝礼なども可能な限り英語を使って行うといった試みも検討しています。</p>
6	<p>Q 成績優秀者を対象にした学校なのか？</p> <p>⇒ 本校は公立の中高一貫教育校であり、成績優秀者を対象にした学校ではありません。英語や国際的な学習に興味関心と意欲がある子ども全員を対象にしています。</p>
7	<p>Q 授業料、諸費用は？</p> <p>⇒ 中学校は入学料や授業料は不要です。高校は大阪市の公立高校と同じ入学料と授業料が必要です。諸経費については、教材費や修学旅行・海外研修積立金、制服代等が必要となります。なお、中学、高校ともに入学者選抜に際して、所定の入学検定料(平成30年度入試は中高ともに、2,200円)が必要です。</p>

② 中学校入学者選抜について

1	<p>Q 募集定員は？</p> <p>⇒ 中学校、高校ともに80名の募集です。初年度は中学1年生と高校1年生で学校がスタートします。</p>
2	<p>Q 募集区域は？</p> <p>⇒ 正式な公表は6月頃を想定していますが、大阪市内に居住されている方を対象とする予定です。</p>
3	<p>Q 入試の内容は？</p> <p>⇒ 正式な公表は6月頃を想定していますが、公立の中高一貫教育校なので学力検査は行いません。適性検査と面接を実施する予定です。</p>
4	<p>Q 合格者の決定方法は？</p> <p>⇒ 正式な公表は6月頃を想定していますが、検査(適性検査・面接)の合計得点の高い順に合格者を決定します。</p>

5	Q 適性検査の内容は？ ⇒ 正式な公表は6月頃を予定しています。
6	Q 合格者の男女比は設定するのか？ ⇒ 設定する予定はありません。
7	Q 他の公立中高一貫教育校と同じ日程か？ ⇒ 正式な公表は6月頃を想定していますが、大阪市立の中高一貫教育校(咲くやこの花中学校)と同日程で行う予定です。
8	Q 中学校入試に英語はあるのか？ ⇒ 平成31年度の中学校入学者選抜の適性検査に「英語」は出題いたしません。
9	Q 英語の資格は入試で優遇されるのか？ ⇒ 中学校入学者選抜において、英語の資格を優遇するということはありません。
10	Q どのような準備をすればよいのか？特別な受験勉強は必要なのか？ ⇒ 出題範囲は小学校で学習する内容です。小学校の授業をしっかり受け、表現力・思考力などを身につけるとともに、文章で表現する力もしっかりと養っておいてください。また、日頃から様々なことに興味・関心を持ち、それについて自分の考えを言えるようにしておいてください。
11	Q どれくらいの入学レベルか？ ⇒ 特に想定していません。将来、国際的な舞台で英語を駆使して活躍することを目標とし、本校で勉強したいと思う方々に一人でも多く受験してほしいと考えています。
12	Q 外国人枠や帰国生枠はあるのか？ ⇒ 正式な公表は6月頃を想定していますが、中学校入学者選抜では予定していません。
13	Q インターナショナルスクール卒業生の優先枠はあるのか？ ⇒ 正式な公表は6月頃を想定していますが、優先枠を設ける予定はありません。
14	Q インターナショナルスクールに通っているが受験可能か？ ⇒ 正式な公表は6月頃を想定しています。応募資格については、公表後、個別にご相談ください。
15	Q 中2や中3から編入できるのか？ ⇒ 中学校では編入や転入は行いません。中学1年生からの入学のみとなります。
16	Q 入学時点でどの程度の英語力が必要か？ ⇒ 中学校入学に際して特別な英語の力は必要ありません。小学校での外国語活動等を通じて英語の学習に興味関心があり、英語の勉強を頑張ろうという強い意欲があれば十分です。
17	Q 小学校から英会話教室や英語塾に通わせる必要はあるのか？ ⇒ 本校を受験するための対策としては、特に必要ないと考えています。

### ③ 高校入学者選抜について

1	Q 募集定員は？ ⇒ 中学校、高校ともに80名の募集です。初年度は中学1年生と高校1年生で学校がスタートします。
---	---

2	Q 募集区域は？ ⇒ 詳しいことは後日大阪府教育庁から発表されますが、大阪府内に居住されている方を対象とする予定です。(昨年は3月末に選抜方針が発表されました。)
3	Q 入試の内容は？合格者の決定方法は？ ⇒ 大阪府公立高等学校の入試制度に則って実施します。詳しいことは後日大阪府教育庁から発表されます。(昨年は3月末に選抜方針が発表されました。)
4	Q 英語の資格は入試で優遇されるのか？ ⇒ 詳しいことは後日大阪府教育庁から発表されますが、昨年の選抜から学力検査「英語」において、外部機関が認証した英語力判定テストのスコア等が活用されています。(昨年は3月末に選抜方針が発表されました。)
5	Q どれくらいの入学レベルか？ ⇒ 特に想定していません。将来、国際的な舞台で英語を駆使して活躍することを目標とし、本校で勉強したいと思う方々に一人でも多く受験してほしいと考えています。
6	Q 外国人枠や帰国生枠はあるのか？ ⇒ 大阪府公立高等学校の入試制度に則って実施します。「海外から帰国した生徒の入学者選抜」については実施する予定です。
7	Q 入学時点でどの程度英語力が必要か？ ⇒ 高校からの入学生はある程度の英語運用能力があることが望ましいですが、高校入試は大阪府公立高等学校の入試制度に則って実施しますので、中学校でしっかりと英語の学習を行っておいてください。

#### ④ 教育課程について(中学校)

1	Q 中学校の教育内容について、他の一般公立中学校と何が違うのか？ ⇒ 本校では、一般の公立中学校より、週あたり4時間多く授業を行います。具体的には、一日7時間の日が3日、6時間の日が2日となります。なお、増時間分は「英語」と本校独自の教科である「国際理解」などにあてられます。
2	Q 中学校にもコースはあるのか？ ⇒ 中学校ではコース分けはありません。
3	Q 英語で行う授業は何時間くらいあるのか？ ⇒ 中学校では、「英語」、「数学」、「理科」、「国際理解(学校選択科目)」の授業を英語を用いて行います。週33時間の授業のうち、14～15時間が英語での授業になる予定です。
4	Q 教科横断型の探究学習をどのように進めるのか？ ⇒ 中学校においても国際バカロレアの教育手法を取り入れた授業を実施します。日常生活に関連した一つのテーマに対し、複数の教科でそれぞれの視点で課題探究型の授業を行います。複数の教科を調整する専門のコーディネーターも配置する予定です。
5	Q 高校の学習内容の先取り学習は、どの教科でどういう形で行うのか？ ⇒ 各教科の内容のうち、中学校と高校で相互に関連する内容について、高校での学習内容を中学生のうちに学習します。
6	Q 全国学力・学習状況調査、中学生チャレンジテスト、大阪市中学校3年生統一テストは受けるのか？ ⇒ 他の市立の中学校と同様に実施します。

#### ⑤ 教育課程について(高校)

1	Q 高校の教育課程の特徴は？ ⇒ 高校においても、より高い英語運用能力を身につけることを目標にしています。「グローバル探究科」の専門教科を中心に、2年次からは「グローバルコミュニケーションコース」、「グローバルサイエンスコース」、「国際バカロレアコース(国際バカロレア認定校となってから設置)」のコース別の履修となります。
---	--

2	<p>Q コースの詳細は？</p> <p>⇒ 高校2年次から3つのコースに分かれます。  「グローバルコミュニケーションコース」は、国際社会で活躍するための実践的なコミュニケーション能力や英語運用能力を育成するコースです。  「グローバルサイエンスコース」は、自然科学分野において、国際的な舞台で科学的な能力や知見を発揮して活躍できる人材を育成するコースです。  「国際バカロレアコース(国際バカロレア認定校となってから設置)」は、国際バカロレア・ディプロマ資格の取得をめざすコースです。</p>
3	<p>Q 英語で行う授業は何時間くらいあるのか？</p> <p>⇒ 高校においては「英語」、「数学」、「理科」、「グローバル探究(専門教科)」の授業を中心に英語を用いて授業を行います。コースや選択する授業によって異なりますが、週35時間の授業のうち、概ね14～25時間が英語での授業になる予定です。</p>
4	<p>Q 英語以外の外国語の授業はあるのか？(高校)</p> <p>⇒ 現在検討中です。</p>
5	<p>Q 理数系にも力を入れているのか？</p> <p>⇒ 本校は国際系の専門学科ですが、「グローバルサイエンスコース」を設置し、「中学校理科実験室」、「化学実験室」、「生物実験室」、「物理・地学実験室」の4つの実験室を整備するなど、理数系の授業にも力を入れています。他校の理数系学科のように多くの理数系科目を履修することはできませんが、数学や理科の授業を英語で行い、国際的な舞台で科学的な能力や知見を発揮して活躍できる人材を育てます。</p>
6	<p>Q コース分けの方法は？</p> <p>⇒ 高校1年の2学期に決定します。「グローバルコミュニケーションコース」、「グローバルサイエンスコース」については特に定員などは設けておらず、希望通りとする予定ですが、「国際バカロレアコース(国際バカロレア認定校となってから設置)」については十分にガイダンスを行い、カウンセリングを重ねた上で決定する予定です。</p>
7	<p>Q アクティブ・ラーニングの授業はあるのか？</p> <p>⇒ 中学校、高校ともに国際バカロレアの教育手法を取り入れた課題探究型の授業を多く実施します。また、全ての授業で、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざしてまいります。</p>
8	<p>Q 土曜授業はあるのか？</p> <p>⇒ 大阪市立の高校は土曜日は休業日となっているため、授業は行いません。ただし、授業参観等で授業を行う場合があります。また、学校行事や補習等を行う場合もあります。</p>

#### ⑥ 英語による授業について

1	<p>Q 他の一般公立中学校より「英語」の授業時間数は多いのか？</p> <p>⇒ 「英語」の時間については、一般公立中学校より週あたり1時間程度多く設定します。「英語」以外の「数学」、「理科」、「国際理解(学校選択科目)」で英語を用いた授業を行いますので、英語に触れる機会は一般公立中学校よりはるかに多くなります。</p>
2	<p>Q 中学校での「英語」の授業の特徴は？</p> <p>⇒ 専任の英語ネイティブ教員が授業を行います。習熟度別でスピーキング、リーディング、ライティングの授業を行います。また、英語でのペアワーク、グループワークの機会を授業内で多く設け、対話を通じて英語力の習得を図ります。</p>
3	<p>Q 中学校1年の最初から英語での授業を行うのか？どのように行うのか？</p> <p>⇒ 中学校1年の1学期は、できるだけ平易な英語による対話を中心とした授業を進め、必要に応じて日本語のサポートを行う予定です。</p>

4	<p>Q 英語ができなくて入学したら、英語での授業についていけるか？</p> <p>⇒ 高校入学の場合は、一定の英語運用能力が必要です。中学校入学では英語の能力は問いません。小学校での外国語活動を通じて英語には慣れ親しんでもらっていると思いますが、特に中学1年次では、必要に応じて日本語でのサポートを行います。ネイティブ・非ネイティブの英語指導助手を配置して、学習に支障が出ないようにサポートします。</p>
5	<p>Q 英語での授業をどのように行うのか、具体的な授業の方法は？</p> <p>⇒ 授業は日本語で書かれた検定教科書を用いて行います。検定教科書を英語に訳したプリント等を活用して、英語による授業を行います。入学当初は、できるだけ平易な英語による対話を中心とした授業を進め、必要に応じて日本語のサポートを行う予定です。慣れてくれば、英語での授業を十分理解できるようになります。</p>
6	<p>Q 数学や理科の授業は、全ての時間を英語で行うのか？(例えば、週4時間のうち2時間は英語というようなやり方はしないのか？)</p> <p>⇒ 原則、英語で授業を行いますが、生徒の英語運用能力に応じて、適宜、日本語でのサポートを行います。</p>
7	<p>Q 数学や理科の授業を英語ですることによって、肝心の数学や理科の学力は落ちないのか？(もともと理数系は難しくて苦手という生徒が多いが…)</p> <p>⇒ 授業は英語で行いますが、日本語で書かれた検定教科書の内容を学習します。英語で行うことにより、数学・理科の理解に支障が出ないよう、生徒個々の能力に応じた日本語での授業も検討しています。また、高校では、国内大学進学をめざす生徒を対象とした、日本語での大学入試対策講座を開講する予定です。</p>
8	<p>Q 英語での授業について、学習に支障のないようサポート体制があるとのことだが、具体的にどのような方法か？</p> <p>⇒ EAL(English as an additional language)教員と呼ばれる英語指導助手を初年度から3名配置し、将来的には約10名配置する予定です。通常のカリキュラムとは別に、主任EAL教員が、英語力アップのための特別カリキュラムを構築して指導します。</p>
9	<p>Q 英語で行う授業は外国人教員が行うのか？</p> <p>⇒ 本校は、多数の専任外国人教員が配置されます。日本の教員免許をもった専任外国人教員が英語での授業を担当する予定です。</p>
10	<p>Q 英語で行う分、授業進度が一般の中学校より遅れるのではないのか？</p> <p>⇒ 日本語で書かれた検定教科書を用いて、学習指導要領に基づいた年間指導計画を年度当初にお示しします。本校も全国学力・学習状況調査、中学生チャレンジテスト、大阪市中学校3年生統一テストを実施しますので、大阪市立の他の中学校と同じ進度で授業を行います。</p>
11	<p>Q 定期テストも英語で出題されるのか？</p> <p>⇒ 英語で行われる科目は原則その予定です。必要に応じて日本語訳をつけるなど、英語がわからないからテストができないということのないようにします。</p>

### ⑦ 進路指導について

1	<p>Q 具体的にどの程度の大学への進学を想定しているのか？</p> <p>⇒ 国内大学・海外大学など幅広い大学進学を想定しています。本校では高校卒業時にCEFR B2レベル(TOEFL・iBT72-94、英検準1級等)以上の英語運用能力の習得をめざしており、培った英語の力を最大限発揮し、様々な国公立大学への進学を視野に入れていきます。</p>
2	<p>Q 大学の推薦枠はあるのか？</p> <p>⇒ 開校前なので現在のところ特定大学の推薦枠はありませんが、英語教育に特化した本校の強みを積極的に国内外にアピールし、多くの大学から推薦枠をいただきたいと考えています。</p>
3	<p>Q 数学、理科を英語で授業を行って、日本の大学入試に対応できるのか？</p> <p>⇒ 数学、理科については、高校では、国内大学進学をめざす生徒を対象とした、日本語での大学入試対策講座を開講する予定です。</p>

4	<p>Q 国公立大学をめざせる学力はつこのか？</p> <p>⇒ 英語と国際理解教育に重点をおいた教育課程であり、なおかつ数学や理科の授業も英語で行うため、英語については国公立大学の入試に十分対応できる学力をつけることができます。授業だけで不十分な部分については、補習等で国公立大学入試に対応できる学力を身につけてもらいます。また、数学、理科については、高校では、国内大学進学をめざす生徒を対象とした、日本語での大学入試対策講座を開講する予定です。</p>
5	<p>Q グローバル・サイエンスコースを選択した場合、センター試験に対応できるか？</p> <p>⇒ 「グローバルサイエンスコース」では、センター試験に対応した科目について一通り履修します。また、授業以外に放課後や長期休業中にセンター試験対策講習を行う予定です。</p>
6	<p>Q 理科系の大学進学も可能か？</p> <p>⇒ 放課後や長期休業中に国公立大学理系・文系、私立大学理系・文系など進路目標を明確にした補習体制で正規の授業だけでは不十分な部分を補いますので、理科系の大学にも進学が可能です。</p>
7	<p>Q 国際バカロレアの教育手法を取り入れた課題探究型授業を多く取り入れるとのことだが、大学入試の対応は？</p> <p>⇒ 2020年の大学入試改革で国公立大学、私立大学とも推薦入試、AO入試での合格者割合を大幅に増やすことが計画されています。各大学の入試説明会の動向を総合すると知識量や一つの正解で学力を判断するのではなく、多様な答えを問う質問に対して、受験者もつ知識を結び付けて自身の答えを導き出す過程を評価する傾向が鮮明になってきています。国際バカロレアの課題探究型の学びはそういったスキルを培うのに適していると全世界の大学から評価されています。また、本校では推薦入試、AO入試ではなく、一般入試での大学進学を希望する生徒のために、日本語での大学入試対策講座を開講する予定です。</p>
8	<p>Q 大学入試についてのフォロー体制は？YMCAが入試対策講座等をするのか？</p> <p>⇒ 本校の教員が中心となって入試対策を行います。受験指導に長けた外部講師による指導も検討しています。</p>
9	<p>Q 国内大学進学の際の進路指導についての教員体制は？</p> <p>⇒ 進路指導専門の部署を設置し、国内大学進学、IB入試、海外大学入試などの進路指導を行います。それぞれに精通した教員が進路指導に当たります。</p>
10	<p>Q 海外大学進学のサポートは？</p> <p>⇒ 学校を運営する大阪YMCAは海外に多くのネットワークを有しており、海外大学進学については従来の公立学校にはないノウハウをもっています。海外大学進学に精通している外国人教員スタッフが丁寧にサポートします。</p>

### ⑧ 国際バカロレアについて

1	<p>Q 国際バカロレア認定校にはいつなるのか？また、国際バカロレアの授業はいつから開始されるのか？</p> <p>⇒ 2019年4月に中学校に入学した生徒が高校2年になる2023年から国際バカロレア・ディプロマプログラムの授業を開始する予定で進めていましたが、候補校申請を早めることにし、昨年12月に候補校申請を行いました。通常、認定がおりるのに2年程度はかかると聞いています。現段階ではいつから国際バカロレアの授業を開始するかははっきりとは申し上げられません。認定の目途がつき次第公表させていただきます。</p>
2	<p>Q 国際バカロレアコースで1条校の高卒資格は得られるのか？</p> <p>⇒ 本校は学校教育法第1条に規定される中学校・高等学校であり、コースに関わらず本校を卒業すれば1条校の高校卒業資格を得ることができます。</p>
3	<p>Q 国際バカロレアコースの授業料は、通常の授業料に加えて別途必要なのか？</p> <p>⇒ 国際バカロレアコースの生徒について、授業料を別途徴収する予定はありません。ただし、ディプロマ資格最終試験に係る費用等、個人に係る費用は必要になります。</p>
4	<p>Q 国際バカロレアコースの授業時間数は、通常の授業時間に加えて国際バカロレアの授業時間を設けるのか？</p> <p>⇒ 通常の時間割の枠内で国際バカロレアの授業を行う予定です。</p>

5	<p>Q 高校からの入学者も国際バカロレアコースに入れるのか？</p> <p>⇒ 国際バカロレアコースを希望する生徒については、内部進学生、外部入学生に関わらず十分にガイダンスを行い、カウンセリングを重ねた上で、納得してコース選択をしてもらいます。高校からの入学生徒も国際バカロレアコースに入ることは可能です。</p>
6	<p>Q 日本の大学への入学資格は得られるのか？</p> <p>⇒ 本校は学校教育法第1条に規定される中学校・高等学校であり、コースに関わらず本校を卒業すれば1条校の高校卒業資格を得ることができます。したがって、当然日本の大学への入学資格を得ることができます。</p>
7	<p>Q 国内大学受験の場合、国際バカロレアは役に立つのか？</p> <p>⇒ ここ数年、国際バカロレア資格を活用した入試制度を備えた大学が増加しています。文部科学省のホームページに一覧が掲載されていますので、ご覧ください。  <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1308005.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1308005.htm</a></p>
8	<p>Q 中学校から国際バカロレアはしないのか？</p> <p>⇒ 現段階では、中学校で国際バカロレアを導入する予定はありませんが、国際バカロレアの教育手法を取り入れた課題探究型の授業を多く実施します。</p>
9	<p>Q 国際バカロレアの授業を行う教員に国際バカロレアの教員資格のようなものはあるのか？</p> <p>⇒ 国際バカロレアの授業を担当するには、日本の教員免許状に加えて、国際バカロレア機構が実施する所定の研修(ワークショップ)を受講する必要があります。</p>
10	<p>Q 他の国際バカロレア認定校との交流はあるのか？</p> <p>⇒ 大阪YMCAのネットワークをいかして海外、国内の国際バカロレア認定校の生徒同士の交流を推進し、相互的かつ刺激あえるような学びの環境を提供する予定です。</p>
11	<p>Q 国際バカロレア資格をとらないで、この学校に入学する価値はあるのか？</p> <p>⇒ 本校では、生徒全員に国際バカロレアの教育手法を取り入れた課題探究型の授業を多く提供します。国際バカロレアコースに進まなくても、探究型の授業を受けたい方、英語運用能力を海外留学できるレベルまで上げたい方にとっては、本校での学びは非常に価値があると考えています。</p>
12	<p>Q 国際バカロレアの教育手法を他の市立学校にも普及してほしい。どのように普及していくのか構想はあるのか？</p> <p>⇒ 本校での、国際バカロレアの教育手法を取り入れた教育実践や公開授業を本市教員研修等に取り入れ、市立学校に普及していきます。また、本校でのイベント等に市立学校の児童・生徒にも参加してもらい、国際バカロレアに触れてもらう機会をつくることも検討しています。</p>
13	<p>Q 国際バカロレアコースに進むための条件は何かあるのか？成績で選考するのか？</p> <p>⇒ 国際バカロレア資格を取得するには、授業の課題や事前準備などに多くの時間をとられるため、高いタイムマネジメント能力が備わっていると、毎日の学習に取り組むための強い意欲が必要です。そのため、国際バカロレアコースへの選択を希望する生徒については、内部進学生、外部入学生に関わらず、本人・保護者と十分にガイダンスを行い、カウンセリングを重ねた上で、納得してコース選択をしてもらいます。それでも希望者が多い場合には、成績、適性、意欲などを総合的に判断し、国際バカロレアコース履修者を決定します。</p>
14	<p>Q 国際バカロレアコースが学年20～25名というのはなぜ？</p> <p>⇒ 国際バカロレアの授業は概ね20～25名以下の人数で行います。日本の他の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを実施している高等学校の国際バカロレアコースの人数は、概ね20～25名以下です。</p>
15	<p>Q グローバル・コミュニケーションとグローバル・サイエンスコースでは、国際バカロレア資格はとれないのか？</p> <p>⇒ 国際バカロレア資格については国際バカロレアコースの生徒しか取得することはできませんが、グローバル・コミュニケーションコースとグローバル・サイエンスコースの生徒も科目単位で国際バカロレアの授業を履修することは可能です。</p>

⑨ 公設民営について

1	<p>Q 公設民営のメリットは？</p> <p>⇒ 公設民営学校とは、公(大阪市)が学校を設置し経費を負担し、民間法人(大阪YMCA)が学校の管理運営を行う学校のことです。民間法人が学校運営を行うので、外国人教員の様々な職種への任用、民間知見を活用した海外との交流など、従来の公立学校ではできなかったバラエティー豊かな学校運営が可能になります。</p>
2	<p>Q 公設民営のデメリットは？</p> <p>⇒ 何らかの理由で民間法人が学校の管理運営を継続できなくなるリスクがあるという点です。あつてはならないことですが、万一そのような事態になった場合、大阪市が責任をもって学校の管理運営を行い、在校生に支障のないように教育活動を継続してまいります。</p>
3	<p>Q 大阪市教育委員会の役割は？</p> <p>⇒ 学校の管理運営は大阪YMCAが行いますが、大阪市教育委員会は大阪YMCAに対して報告聴取、調査、指示等を行う権限を有しています。</p>
4	<p>Q 教職員は大阪市、大阪YMCAどちらが雇用するのか？</p> <p>⇒ 教職員は大阪YMCAが雇用します。</p>
5	<p>Q 教員募集の方法は？</p> <p>⇒ 教員は大阪YMCAが雇用します。大阪YMCAの国内外のネットワークの活用や、大阪YMCAが開設した水都国際中学高校のホームページ、教員募集サイト、海外の教員募集サイトなど複数の方法で広く世界から優秀な教員を募集します。</p>
6	<p>Q 教員採用の基準は？</p> <p>⇒ 日本、あるいは海外の教員資格を有する方を教員として採用します。日本の教員免許状を有していない場合は、教員免許状を取得後、教壇に立つこととなります。日本の教員免許状を有していない教員が授業を担当することはありません。大阪YMCAの教員募集要項で必要な要件を細かく設定しており、条件を満たした方を採用します。</p>
7	<p>Q 外国人教員の割合は？</p> <p>⇒ 現時点での想定ですが、専任教諭の約3割～4割の外国人教員の配置を考えています。</p>
8	<p>Q 大阪YMCAが学校運営を行うが、宗教色はでないのか？</p> <p>⇒ 教育基本法には、「国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。」とあります。当然大阪YMCAもこのことを十分理解して学校運営を行います。</p>
9	<p>Q 大阪YMCAの他の事業との連携はあるのか？</p> <p>⇒ 公設民営学校の最大のメリットである、「民間知見の活用」という点で、大阪YMCAが行っている様々な事業や豊富なネットワークを本校での教育活動に十分活用してまいります。</p>

⑩ 中高一貫教育について

1	<p>Q 中学校から高校へは無条件で進学できるのか？</p> <p>⇒ 本校は併設型中高一貫教育校であり、併設中学校から高校への入学者選抜は行いません。したがって、併設中学校から高校へは入学試験なしで進学できます。</p>
2	<p>Q 高校は別の学校に進学してもよいのか？</p> <p>⇒ 制度上は可能ですが、本校は、一部の教科で中学校で高校の学習内容を勉強するなど、中高6年間を見据えた一貫した教育課程を編成します。中学校への入学を希望される場合は、6年間学ぶことを前提に志願してください。</p>
3	<p>Q 内部進学者と外部入学者は高校で同じクラスになるのか？</p> <p>⇒ 高校2年生からは混合したクラスになる予定です。高校1年生については現在検討中です。</p>



4	Q 中高合同行事はあるのか？ ⇒ 体育祭や文化祭などの学校行事を合同で行うなど、異年齢の集団が交流し切磋琢磨できるよう検討しています。
5	Q 給食は中高一緒にとるのか？ ⇒ 中学校では大阪市の学校給食制度に基づいて給食を実施します。高校では給食はありません。

### ⑪ 海外研修・留学について

1	Q 海外研修はあるのか？ ⇒ 高校2年生の時に全員対象の海外研修を行う予定です。また、中学校、高校とも希望者を対象とした海外語学研修を行う予定です。
2	Q 海外語学留学にかかる費用は？ ⇒ 他校の例では、短期の語学研修の場合（夏休みなど）、行き先や期間によって異なりますが、20万円～50万円の間が一般的です。
3	Q 海外交換留学の制度はあるのか？ ⇒ 現在検討中ですが、大阪YMCAの海外ネットワークを活用し、様々な国の教育機関との間で交換留学の制度を構築していきたいと考えています。
4	Q 留学の紹介や斡旋はどの程度行ってくれるのか？ ⇒ 現在検討中です。
5	Q 留学の際、奨学金制度のようなものはあるのか？ ⇒ 現在検討中です。

### ⑫ 学校生活について

1	Q どのような部活動ができるのか？ ⇒ 開校初年度は中高それぞれ80名の学校規模であり、運動系の部活動は限られる可能性があります。文化系については様々な種類の部活動を行う予定です。運動系の部活動には大阪YMCAの体育指導者も積極的に関わる予定です。平成30年度中に詳細をお知らせします。
2	Q 土曜日や日曜日に部活動は行われるのか？ ⇒ どういった部活動を行うのかまだ決まっていますが、土曜日や日曜日にも活動する可能性はあります。活動する場合でも、日々の学習に支障のない範囲で行います。
3	Q 平日の部活動は何時まで？早朝練習もあるのか？ ⇒ 平日の部活動の終了時間は今後検討してまいります。早朝練習についても行う可能性はあります。部活動は、日々の学習に支障のない範囲で行います。
4	Q 日本人の先生と外国人の先生のどちらが担任になるのか？ ⇒ 原則として中学校は日本語を母語とする教員が担任、英語を母語とする教員が副担任となります。高校では英語を母語とする教員が担任になる場合もあります。どのクラスも日本語を母語とする教員と英語を母語とする教員が、担任・副担任のペアになります。
5	Q 高校に食堂はあるのか？ ⇒ 2022年3月末に完成予定の新校舎に食堂を設置予定です。開校後3年間は食堂はありませんが、売店コーナーを設置する予定です。
6	Q スクールバスの導入予定は？ ⇒ 予定しておりません。

7	<p>Q 制服はあるのか？</p> <p>⇒ 制服はあります。平成30年の夏ごろに制服の公表を行う予定です。</p>
8	<p>Q 給食はあるのか？</p> <p>⇒ 中学校では大阪市の学校給食制度に基づいて、自校調理方式の給食を実施します。高校では給食はありません。</p>
9	<p>Q 英検などの資格取得対策は？</p> <p>⇒ 英検、TOEIC、TOEFL、IELTSなど資格対策のためだけの授業は予定していませんが、正規授業や課外プログラムで積極的に学ぶことによって、より高い英語運用能力を身につけていただきたいと思います。大阪YMCAの各種資格取得のノウハウを本校の運営に活かします。</p>

⑬ その他

1	<p>Q 発達障がいのある生徒への支援・配慮はどうなっていますか？</p> <p>⇒ 大阪市では「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進しており、各校では、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の促進に向け校内研修の実施や、教育委員会からの巡回相談の活用等、支援体制の充実に努めています。本校の学校運営を行う大阪YMCAも、これを踏まえ十分な支援体制を整えます。</p>
2	<p>Q 地震や津波などの災害への対策は？</p> <p>⇒ 本校が位置する咲洲の南港ポートタウン地区は地盤が高いため、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定範囲にはなっていません。また、咲洲へのアクセスとなる南港大橋、咲洲トンネル及び夢咲トンネルは、国の耐震基準を満たしています。しかしながら、災害発生時に物資の供給や支援が得られないおそれがあることから、住之江区役所では独自に備蓄食料の配備を行うなどの取組みを行っています。また、本校においても、校内での防災訓練や教職員向けの研修を実施するなど、大阪市と大阪YMCAが連携しながら、生徒の身体の安全の確保に向けて取り組んでいきます。なお、咲洲の防災対策の詳細については、次の大阪市ホームページに掲載していますのでご覧ください。 (<a href="http://www.city.osaka.lg.jp/port/page/0000042034.html">http://www.city.osaka.lg.jp/port/page/0000042034.html</a>)</p>